

第10回 弓浜助け合いネットワーク

～ 認知症と共に歩む明るい社会 ～

【主催】米子市(米子市弓浜地域包括支援センター)、弓浜助け合いネットワークの会実行委員会 【共催】社会福祉法人真誠会、NPO法人いびなネット、在宅医療連携拠点事業コスミックリンク 【後援】米子市社会福祉協議会

米子市弓浜地域の住民、行政、専門機関が連携して地域づくりを考えるシンポジウム「第10回弓浜助け合いネットワークの会」が2014年10月19日、同市大崎の弓浜ホスピタムで開催された。「認知症と共に歩む明るい社会」をテーマに、基調講演やオレンジカフェ(認知症カフェ)の実践報告などが行われた。参加者約250人が認知症について理解を深め、お互いを見守り、支え合う地域をつくっていくことを誓った。



「支え愛センター・オレンジカフェに託す夢」 弓浜から米子を変える、鳥取を変える

皆さんにとって、面白いがある認知症や地域包括ケアシステムの今後の方向性についてお話しします。以前の医療と地域包括ケアシステムは、病院といえは鳥取大医学部付属病院や米子医療センター、山陰労災病院、施設も大型施設にとり、周辺地域から住民が集中する典型的な「広域型、病院施設完結型」でした。

地域完結型社会へ

米子市のように大学病院や医療センター、労災病院と大きな病院が三つもあるところは全国でも珍しく、医療面では山陰でトップ、全国でもトップクラスの高度医療が揃っています。福祉や介護保険、NPOやボランティアの登録件数も全国でトップクラスです。皆さんは気軽に大学病院を受診しますが、本来は開業医で対応できない場合に高度な医療を受けることとなります。米子の医療環境を当たり前に前だと思えば大間違いです。

在宅支える「見守り」

在宅ケアが中心となる。これからは、高齢者の在宅での生活を支える仕組みが必要になります。一番大切なことは「見守り」です。在宅の生活支援には訪問して様子を見る▽食事の世話をする▽買い物を手伝う▽などいろいろあります。

弓浜発 助け合い社会実現へ

「自助・互助・共助・公助」という言葉があります。「自助」は自分自身のこと、自分自身で支えること、「互助」は地域で互いに助け合うこと、「共助」は保険「公助」は生活保護などの国が行うこと。今後、財政状況から共助と公助の予算は少なくなり、自助の部分、つまり地域で助け合うことを意識した取り組みが大きな役割を担うようになり、自助・互助・共助・公助のバランスが大切になってきます。

「支え愛センター・オレンジカフェに託す夢」 弓浜から米子を変える、鳥取を変える

併せて、自分で自分のことが出来る命「健康寿命」を延ばすことも大切です。自分のため、人を助けることが自分を助けることだということを忘れてはいけません。

基調講演

医療法人社会福祉法人真誠会理事長 小田 貢



「弓浜助け合いネットワーク」は、今回で10回目となりましたが、このように取り組みを継続していくことで、年代を超えた地域住民の皆さん

主催 あいさつ

の支え合いの気持ちで芽生え、地域づくりにつなげていくこととお互いを見守り、支え合う地域をつくっていくことを誓った。

助ける、支え合うこと。これが昔からいわれる「情けは人の為ならず」ということです。情けをかける、人を助けることはいずれ巡り巡って自分も助けてもらうことになる。併せて、自分で自分のことが出来る命「健康寿命」を延ばすことも大切です。自分のため、人を助けることが自分を助けることだということを忘れてはいけません。

「自助・互助・共助・公助」という言葉があります。「自助」は自分自身のこと、自分自身で支えること、「互助」は地域で互いに助け合うこと、「共助」は保険「公助」は生活保護などの国が行うこと。今後、財政状況から共助と公助の予算は少なくなり、自助の部分、つまり地域で助け合うことを意識した取り組みが大きな役割を担うようになり、自助・互助・共助・公助のバランスが大切になってきます。

「自助・互助・共助・公助」という言葉があります。「自助」は自分自身のこと、自分自身で支えること、「互助」は地域で互いに助け合うこと、「共助」は保険「公助」は生活保護などの国が行うこと。今後、財政状況から共助と公助の予算は少なくなり、自助の部分、つまり地域で助け合うことを意識した取り組みが大きな役割を担うようになり、自助・互助・共助・公助のバランスが大切になってきます。

「自助・互助・共助・公助」という言葉があります。「自助」は自分自身のこと、自分自身で支えること、「互助」は地域で互いに助け合うこと、「共助」は保険「公助」は生活保護などの国が行うこと。今後、財政状況から共助と公助の予算は少なくなり、自助の部分、つまり地域で助け合うことを意識した取り組みが大きな役割を担うようになり、自助・互助・共助・公助のバランスが大切になってきます。



認知症について理解を深める参加者

シンポジウム コーディネーター 真誠会医療福祉連携センター長 小山 雅美氏

真誠会富士見町オレンジカフェ
通所介護真誠会ロースカーテン管理者 道祖正紀氏
富士見町オレンジカフェでは、毎月第3土曜日をオレンジの日として午後2時から3時半まで認知症のミニ講座や予防の講座、タッチパネルを使用した相談プログラム、トリゴネコーヒアの試飲などを企画しています。

まちなかカフェわだや
米子市認知症地域支援推進員 吉野靖子氏
若年性認知症の人や家族の相談から行き場のない居場所が必要と考える「わだや」の会を立ち上げました。平成26年4月のオープンから半年間で約300人が参加しました。築100年の大きな家なので、建築費の若者たちが参画し、若者からお年寄りまで多くの人が集まっています。

真誠会弓浜オレンジカフェ
介護老人保健施設弓浜ゆうとびあ管理者 松本智美氏
美保・弓ヶ浜地域は全人口の約3分の1が65歳以上で、認知症高齢者は764人と報告されています。

和田ふる里オレンジカフェ
和田地区民生委員 大前恭子氏
私が担当する和田地区では、高齢者の転倒骨折が目立つようになり、退院後、以前のようには積極的に地域に溶け込めず、閉じこもりがちになる人が増えてきました。

弓浜地域における認知症に関する取り組み
米子市弓浜地域包括支援センター 管理者 永見直子氏
年々増える認知症患者の対策として厚生労働省はオレンジプランを推進しています。オレンジプランは七つの柱で構成されています。

真誠会 認知症のご相談、リハビリのご相談、生活支援のご相談、福祉用具のご相談を承ります。

高年齢社会に貢献する 医療法人 社会福祉法人 真誠会

米子市河崎580 TEL 0859-24-5666 http://www.hospitown.or.jp 院長 小田 貢 (認知症サポート医)

「弓浜助け合いネットワークの会」の更なる発展にご期待いたします。

おかげさまで70年 **70th** 築く、そして未来へ

環境と安心を支え、地域との絆を深めた70年。感謝と責任を胸に、これからも歩み続けます。

おかげさまで松江土建株式会社は、先端技術でふるさとを支え続けて70年を迎えました。これからも地域の皆様と共に、「環境を守り、安心を創る」先進企業を目指してまいります。

環境を守り、安心を創る。 **松江土建株式会社** 代表取締役会長 神庭 民生 代表取締役社長 川上 裕治

www.matsue-doken.co.jp

本社 〒690-8513 松江市学園南二丁目3番5号 TEL(0852)21-3521 FAX(0852)21-8285 米子営業所 〒683-0852 米子市河崎3309-20 TEL(0859)29-3017 FAX(0859)29-2986 出雲営業所 〒693-0065 出雲市平野町557-2 TEL(0853)23-2420 FAX(0853)23-2421